

私たちの水は今… ～PFAS学習会～

6月4日、調布・生活者ネットワーク主催、調布地域協議会共催でPFAS学習会を開催しました。調布市内外から約80名の参加があり、皆さんの関心の深さが伺えました。

昨年放送されたNHKのPFAS汚染の実態とリスクを伝える番組を観た後、「多摩地域の有機フッ素化合物（PFAS）汚染を明らかにする会」の根本山幸夫さんから、アメリカでの規制強化への動き、多摩地域の地下水の現状について資料をもとに説明がありました。また、多摩地域住民の血液検査の結果、有機フッ素化合物の血中濃度は、全国平均の2倍以上も高いことが明らかにされました。

続いて、木下議員が、東京都のデータから、過去17年間の市内3か所の浄水場の水の数値の推移と、現在は市の水道水は数値の高い井戸からの取水を停止しており、安全なことなどを説明しました。しかし、過去の市内民間井戸の調査では、国目標値の50ng/ℓに対して10倍以上の数値が出ていた所もあり、民間井戸や学校の防災井戸などの調査を早急に進める必要があります。

参加者からは、「ニュースの報道だけではよくわからなかったが、詳しい情報をもらえた」「もっとまわりの人に知らせていくことが大事だと思う」といった感想がありました。調布・生活者ネットワークは今後も環境や健康への影響について周知を図り、対策を提起していきます。

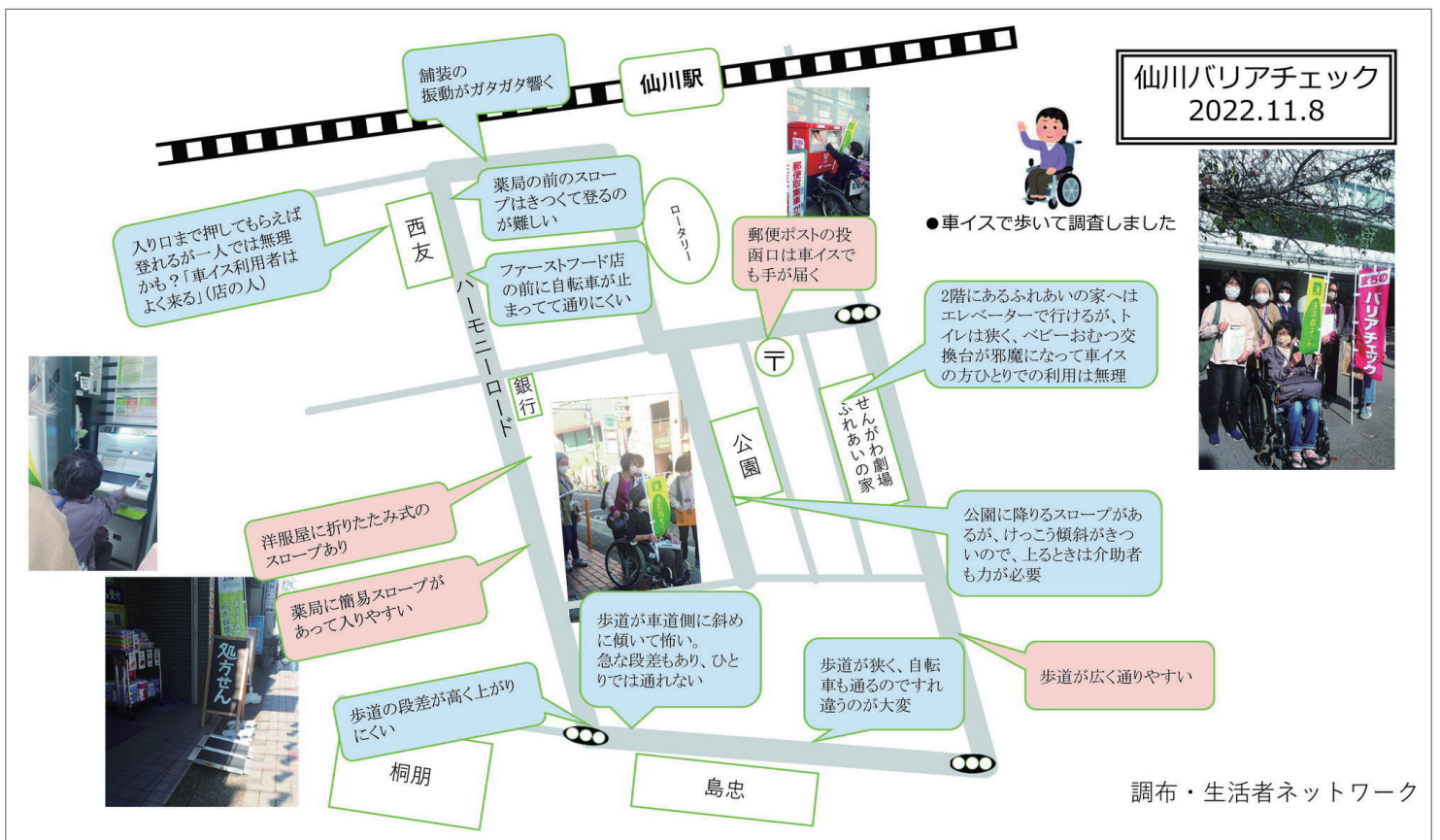
車イスで まちのバリアチェック



昨年11月、調布と仙川の駅周辺で、車イスで感じる「まちのバリア」を調査しました。実際に車イスに乗って、仙川の商店街や大型店舗前を通ってみると、普段感じなかったバリアがいろいろとありました。通行路を狭める駐輪自転車、道路と店舗の段差、歩道の傾斜、人も自転車もたくさん通るのにすれ違いが難しい狭い歩道、舗装によっては体に伝わる振動など。商店街の店舗によっては、スロープを設けている所もあり、配慮が感じられました。

調布駅周辺は道が広く、車イスでの走行は比較的楽でしたが、駅前の多機能トイレの中には喫煙の跡やゴミがありました。バリアを無くすためには、ハード面でのまちづくりだけでなく、車イスを使う人、障がいのある人の日常の不便さを想像できるよう、人の意識への働きかけも必要だと感じました。

この調査をマップにまとめました。



活動報告

木下が関わっている活動をご紹介します

- ◆ 香害をなくす議員の会：全国の90名強の議員が超党派で活動中!
- ◆ 気候危機・自治体議員の会：約450名の議員が共同宣言のもと連携して活動。
- ◆ 多摩地域の有機フッ素化合物（PFAS）汚染を明らかにする会：
京都大学の原田浩二教授の協力のもと、血液検査や地下水検査などを実施。
- ◆ HPVワクチン東京訴訟支援ネットワークの議員勉強会



2月21日 血液検査に参加